



タイでの留学体験

明治大学 情報コミュニケーション学部 4年

井 直大

日本への帰国まで約1ヶ月になり、帰りたくないなあと思い始めました。私の通っているシーナカリンウィロート大学には明治大学から7名の長期留学生在がいます。私は今回の長期留学において語学留学とは一味違った観点で8ヶ月過ごしてきました。私は日本が生きていくにはASEANがキーになると昔から感じており、今年度より運よく情報コミュニケーション学部でタイへの協定ができ、思わず飛びついてしまいました。

私がやっぱりASEANは強い、これからまだまだ伸びると直感で感じたのはバンコクのスワナプーム空港に着いたときでした。飛行機を降りるとそこはタイなのかとびっくりするほど綺麗で巨大なターミナルを目にすることが出来ます。東南アジアのハブ空港で24時間稼働し、イミグレーションでは長蛇の列。この瞬間に私はここでビジネスをしようと誓いました。日本食料理店、日本語、書店、日本語コールセンターなどが多くあり、日本人にとって生活に不自由することは、ほとんどありません。



バンコクの表玄関・スワナプーム空港

しかし、1つ生活を通して発見したことがあります。タイの公官庁や空港など多くの人が利用する場所に設置されている電光掲示板や高級コンドミニアム内の家電などはほぼ韓国企業であるSAMSUNGやLGで埋め尽くされています。私は当時生まれてはいませんが日本では高度経済成長期には白黒テレビ、洗濯機、冷蔵庫は三種の神器と呼ばれていたそうですが、すべて日本製のところはタイではもう見ることはできません。長くタイへ住まれている日本人は、昔は日本製ばかりだったとおっしゃいます。これは日本以外のアジアの国が成長したことが可能性として大きくあると思います。よく日本の国際競争力が落ちたと言われますが、私は日本が落ちたのではなく日本以外の国が間違いなく伸びていると思います。海外旅行に行っただけでは気づけないところですが、タイの学生は本当に勉強しています。私の大学4年間分の勉強を1年くらいでやっているような量です。まだまだこれから伸びていくと思います。

タイへ長期で留学することによりタイ人の素晴らしいところ、よくないところたくさん見えました。逆に言えば日本人の素晴らしいところ、よくないところもたくさん見ることができました。日本は今後も様々な国、地域と経済面だけではなく文化面の交流をもっと盛んにしていくことが大事だと感じることができました。あのGDP世界第二位まで上り詰めた素晴らしい日本国を私たちが作っていかうと思うことができれば必ず生活も経済ももっと豊かになると思います。そのためには今の日本の現状、また諸外国の現状をこのような長期留学を通して気づけた経験は本当に素晴らしいことだと思います。日本人という誇りを持って世界の素晴らしい仲間、ライバルと勝負していくための留学もいかがでしょうか？

【い なおひろ ・ 情報コミュニケーション学部 協定留学生（交換留学生） 牛尾奈緒美ゼミナール所属

2013年5月よりシーナカリンウィロート大学(SWU)に留学中】